

2 学校関係者評価

<評定> 4点…適切な評価である 3点…ほぼ適切な評価である
2点…やや甘い評価である 1点…非常に甘い評価である

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、生徒が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒を育成する	個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる	自教科で授業スタイルを確立し、1時間の流れを理解しわかりやすい授業を展開する	○めあてとふりかえりを明確にした。(振り返しシートの活用) ○1時間の流れを箇条書きにし見直しをもたせて授業を行った。 ○板書の工夫や授業スタイルを確立し、わかりやすい授業を行うようになった。(意味調べ、漢字テスト、計算テスト) ○ワークシートを利用し、基礎基本の定着を図った。また、模範解答などをclassroom(タブレットアプリ)に掲載した。 ○ICT機器の活用により興味のもてる授業を行った。 ○演習を増やし定着を図らせた。 ○テスト1週間前に朝学習を行い生徒は有効に活用していた。 △ふりかえりの時間を十分確保することができなかった。 △能力差・経験値の差が大きく、個の対応が難しい。 △個々の能力に応じた基礎学力の定着が図られなかった。 △タブレットの活用が少なかった。	・スモールステップをふみながら、既習事項を取り入れて、スパイラルに学習を進めていく。 ・個別のレベル別にヒントを与える。 ・補習プリントや難易度別のプリントを用意し、定着を図る。 ・ふりかえりの時間を確保するため、1時間の授業計画通りに進める。(タイマーの活用) ・数学勉強会、放課後勉強会を活用する。 ・学力向上支援講師と連携を図り、ヒントの与え方等を工夫する。 ・動画を利用したり、実験・疑似体験を多く取り入れ、基礎基本の定着を図る。	3.9	3.7	・めあてとふりかえりを行うことで定着が図られる。 ・コロナ禍でグループ活動ができない分、詰込み型の授業になっている。 ・コロナ禍での授業実践、先生方の努力に感謝する。 ・能力差があるので、生徒個々の力に応じた地道な指導を粘り強く継続していくしかない。 ・試験前に放課後勉強会を開き、先生方が熱心にご指導してとても良い。
		課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	自教科の授業で、考える時間を増やし、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に伝え合う授業を行う	○新学習指導要領をふまえ、自ら考える時間や友達と話し合う場面を必ず設定し、表現力の育成を図った。 ○思考力・判断力・表現力を養うためにグループ活動を実施している。(深い学びへ) ○答える際に必ず理由を述べさせ、定着を図らせている。 ○パワーポイントで写真や動画、資料を提示し、自ら発見する場面が増えた。 ○完成図をイメージさせ、大きな流れをつかませ実践させた。 ○宿題を出し、演習時間を確保できた。 △自分の考えをうまくまとめたり、相手に分かるように伝える練習が必要である。 △コロナ禍において、授業時数の観点から考える時間を十分にとれなかった。 △ソーシャルディスタンスをとるためグループでの話し合いや作業を制限する必要があった。	・話し合い活動の時間をあらかじめ入れて授業計画を立てる。 ・日常生活とつながりを感じられる授業展開を図る。 ・グループ学習を取り入れ、他の生徒の意見を参考に、自分の意見をまとめる時間をしっかりとる。 ・記述問題を多く取り入れ、いろいろな問題に取り組ませる。 ・放課後等に残り、一緒に課題に取り組む。 ・タブレット等を活用し、各自語彙を調べて習得させる。 ・ICT機器の活用について研鑽し様々な場面で活用する。 ・考える時間の中で、個別にアドバイスやヒントカードを活用し、思考力・判断力・表現力を育成していく。	3.7	3.4	・新学習指導要領に基づき、思考力・判断力・表現力重視の観点より社会の動きを報じる「新聞」が大切な教材なので活用してほしい。 ・自分で考えをまとめ、発表できる機会をできるだけ多く授業内で実施してください。 ・皆さんの前で発表することが、本人の自信につながると考えます。
		読書活動を推進し、読書習慣を確立する	朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる	○朝読書を毎日行ったことで、読書に親む生徒が増えた。 ○読書の習慣が身に付いてきた。(指示なしで始められる) ○担任も副担任もついて読書できるようになったため、10分間、落ち着いて読書に取り組むことができるようになった。 ○授業で月2回図書室を利用した。(D組) ○図書委員会中心にビブリオバトルを行った。 △ジャンルが偏っている生徒がいる。 △読書については、個人差が大きい。取りかかるまでに時間がかったり、朝読書の時間以外に本を読まない生徒もいる。 △図書室利用が少ない。 △読書が学力向上へつながっているか定かでない。 △黙読が苦手な生徒もいる。(D組) △コロナ禍で、貸し借りできず、学級文庫も置けなかった。	・各教科の時間を活用して、様々な本にふれる機会を設定する。 ・図書室を活用した調べ学習を年間指導計画や単元計画に組み込む。 ・図書だよりで、貸出冊数など情報を提供する。 ・教員からおすすめの本を紹介したり、生徒自身に紹介させ、興味をもたせる。 ・図書委員会等で読書旬間を設けたり、読みやすい本の紹介をしよう。 ・学級文庫を活用する。 ・教員もバタバタせず、一緒に朝読書を行う。	3.7	3.7	・「継続は力なり」です。活字に親むことが重要である。 ・朝の短い時間での読書でも習慣が身に付くので大変喜ばしいことである。 ・生徒が興味をもてそうな本がたくさんありびくりました。 ・「ビブリオバトル」実施とても良いですね。今後機会を増やして実施してください。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	笑顔で明るいあいさつと返事ができ、温かい言葉遣いができる態度を育成する	教職員が明るいあいさつを励行するとともに、あいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う	<ul style="list-style-type: none"> ○こちらからあいさつすると、元氣よくあいさつを返し、登校時もあいさつをする生徒が増えた。 ○場に応じた対応ができるようになってきた。 ○丁寧な言葉遣いをしようという心がける生徒が増えた。 ○マスクをしている割に大きな声であいさつしている。 ○感謝の言葉を言える生徒が増えた。 <p>△あいさつが当たり前のできる生徒と、全く意識がない生徒に分かれている。(自分から進んであいさつできる生徒が少ない)</p> <p>△来校者に対して、あいさつの声が小さい生徒がいる。</p> <p>△心遣いのできる生徒が増えたが、まだ友だちに対して乱暴な言葉がでる生徒がいる。</p> <p>△敬語の使い方や、担任以外の教員にも明るくあいさつすることが目標である。</p> <p>△流行りの言葉を取り入れ話している生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自ら明るいあいさつを心掛ける。 ・生徒会が先頭に立って、あいさつ運動を実施し盛り上げる。 ・道徳の時間や毎日の朝学活や終学活を通してあいさつの大切さや言葉遣いの指導を行う。 ・担任以外の教員や主事さんなど、校内で見かけた人に、自分からあいさつができるよう指導する。(できる生徒は増えてきている) ・教員同士で指導のラインを改めて共通理解していく。 ・言葉遣いが気になる生徒はその都度指導していく。 ・人権教育プログラムの『あなたの人権感覚』を活用し、常に意識して生徒と接する。 	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは社会生活において基本ですので、継続的に指導をお願いします。 ・先生は服装や態度の面で生徒の見本となしてほしい。 ・本校の生徒のあいさつは外部から来たものとしてはよくあいさつしている印象の方が強い。(自然な形であいさつしている) ・思春期のため、積極的になれない生徒がいても仕方ないと思う。
		いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する	ふれあい月間における調査や普段の生活を通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週行っている特別支援教育校内委員会で、気になることを報告し合い共有することで、おおきなトラブルは起こっていない。 ○ふれあい月間に行う調査で、気になる生徒に対して個別に対応することができた。 ○SCや心のふれあい相談員、SSWrとの連携により、いじめを未然に防ぐことができたケースがある。 ○いじめアンケートや生活アンケートを活用し、未然防止、早期発見することができた。 ○休み時間や給食指導など生徒のそばにいる時間を増やし、様子を観察している。 <p>○SNSルールの更新ができた。</p> <p>△自己中心的で友達への思いやりに欠ける言動や態度をとる生徒がいる。</p> <p>△友達とうまく関われない生徒がいる。</p> <p>△遊びの延長からトラブルに発展することがある。</p> <p>△落ち着いているので、いじめに関する啓発が不足している。(教師が危機感を高める必要がある)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さん、君付けの徹底を図る。 ・自己肯定感を高める指導を行う。 ・心配な生徒に関しては積極的に声掛けをしたりSCや心のふれあい相談員に相談し連携を図る。 ・今後もアンテナを張っていく。 ・特別支援コーディネーターを中心に外部(SSWr、子供家庭支援センター等)と連携を図る。 ・常に全校体制、学年体制で取り組む。 ・小学校との連携を密に図る。 ・生徒会を中心にあいさつ運動やいじめ撲滅運動を強化していく。 ・日頃から学校生活の中で、コミュニケーションやSST(ソーシャルスキルトレーニング)の学習を充実させる。 ・保護者との連携を密にしていく。 ・個別に記入できるノート(日記)を用意し、生徒の悩みを早期に発見する。 ・障害理解教育の充実を図る。 	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを撲滅するためには、生徒が先生方に気軽に何でも相談できる雰囲気を作ることがとても重要である。 ・早期発見ができれば、対処しやすく大きな問題へと発展せず、解決できる。 ・生徒一人一人の問題に全校体制で取り組めるのが小規模校の良さである。 ・男女関係なく仲良く楽しく過ごしているようだ。
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	体育の時間、体育的行事、体育朝会、休み時間等を活用し、生徒の運動能力、体力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○根木先生や若杉選手(パラリンピアン)の講演会などに生徒は進んで参加することができ、関心が高まった。 ○招聘する講師が多くスポーツへの興味が増した。 ○運動会などの行事にクラス一丸となって一生懸命取り組んだ。 ○個々の実態に合わせて課題を設定し、体力向上を図ることができた。 ○オリパラの調べ学習を通して、なじみの薄い種目にも興味・関心を高めることができた。 ○体育の授業で回数やタイムといった数値目標を立て取り組み一人一人が意欲的だった。(苦手な生徒も) ○教科指導を通じて、健康教育や体力向上について行った。 ○動画や写真などの資料を活用しオリパラの興味をもたせた。 <p>△運動能力の個人差が大きい。</p> <p>△校庭で体を動かして遊ぶ子が少ない。</p> <p>△オリパラ教育では事前・事後学習に十分な時間を取ることができなかった。</p> <p>△学年によってオリパラ教育の取組に差が出てしまった。</p> <p>△冬季大会についての取組を行う時間がなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もトップアスリートを招聘し一緒に活動することで、運動の楽しさを味わわせる。(全学年) ・トップアスリートだけでなく、スポーツを支える様々な分野の方に来ていただく。 ・オリンピック・パラリンピック教育を今後も計画的に進め興味関心をもたせていく。 ・寒い時期でも教員が声がけをして、昼休みに積極的に外遊びを行うよう促す。 ・部活動(運動部)のさらなる充実(積極的に入部を進める) ・小学校低学年からの遊びの中での巧緻性、柔軟性の継続指導を依頼する。 ・オリパラ教育に関する教材教具を学年・教員間で共有できるようにする。 ・運動への意欲を高められるような取組を計画していく。 ・運動部に入っていない生徒のさらなる体力向上を計画する。 	3.7	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・オリパラ教育をすること自体が素晴らしいことだと思う。 ・校長先生をはじめ担当の方がオリパラアスリートの方を招聘していることに感謝します。 ・今後も生徒が感動し、強烈なインパクトを与えられる人、内容をお願いしたい。 ・今年度も部活動の指導が大変だったと思う。 ・年齢的に校庭で遊ぶ子が少ないのも仕方ないことかもしれません。 ・コロナの影響で取組みにくかったと思います。 	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
健康な生活	安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに、オリンピック、パラリンピック教育を推進する	食育指導を充実させ、食や自らの健康に対する意識を高め、健康の維持増進のための実践力を身に付ける	食に関する指導計画に基づき、給食指導を充実させる	<p>○給食の準備や片付けに関しては、整然とできている。</p> <p>○社会科の授業の中で農業分野で自給率や地産地消の話を取り入れ、食育の意識を高めることができた。</p> <p>○給食メニューが工夫され、家庭では食べない料理が提供された。</p> <p>○アレルギーのある生徒への対応がしっかりできた。</p> <p>○食品ロスを意識して盛る量を工夫し、昨年より残菜が減った。</p> <p>○食に関する指導計画に基づき、関係機関と協力することができた。</p> <p>○感染症予防や衛生面に十分配慮して給食指導ができた。(黙食の徹底)</p> <p>△好き嫌いの激しい生徒がいる。(偏食、小食)</p> <p>△野菜が不人気で、残してしまう生徒が多い。</p> <p>△食への関心が高まっていない生徒もいる。</p> <p>△無理に食べさせないなど、どう対応するかが課題である。</p> <p>△箸の持ち方等、まだ身に付いていない生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いが多い生徒には、引き続き少しでも食べるという指導を根気強く続ける。 ・時間内に食べられる量を盛りつける。 ・食育指導を計画的に進め、食育担当教員と学校栄養補助員と家庭科講師が連携していく必要がある。(栄養士による特別講座の実施) ・オリパラ教育の一環として、アスリートの食事も取り上げてみるとよい。 ・各教科で食育に関連付けられる単元において多角的に食育について学習していく。 ・家庭での協力を求めていく。 ・SDGsの取組の一つに食育について取り入れ学習させる。 ・体力向上と健康維持増進のための具体例を示し指導していく。 	3.4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しの少ないような教育(食育)がより必要だと思います。 ・食育については学校だけでなく家庭と連携協力が必要だと思います。 ・給食中、感染防止対策大変だったと思います。 ・給食大好きだと家で話しています。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	○成果と△課題	改善策	学校関係者評価		
						努力指標	成果指標	評議員からのコメント
開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	HPやたより、学校公開などで教育活動の様子などを伝える	A4版程度の学年、学級、委員会だよりで学年、学級や授業の様子を知らせる	<p>○「学年だより」は毎週定期的に発行することで、保護者の学年に対する理解が深まり、喜びの声をいただいた。</p> <p>○オリパラ関連の内容を学年だよりなどで生徒・保護者に発信することができた。</p> <p>○部活動の結果をこまめにHPにアップすることができた。</p> <p>○メディアコントロールの取組状況を伝えることができた。</p> <p>○「保健だより」を通じて学校での取組等を各家庭に伝えることができた。</p> <p>△HPを見てもえない家庭がある。</p> <p>△生徒から保護者へ学年だよりが渡っていないことがある。</p> <p>△月1回学校公開を行っているが、参観者が少ない。</p> <p>△学年だよりなどマンネリ化してきた。</p> <p>△家庭や生徒からの発信が難しかった。</p> <p>△昨年度と比べてHPの発信力は落ちている。</p> <p>△各委員会が「委員会だより」を出せると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に生徒の様子が伝わるよう写真を入れたり端的な文章で発行していく。 ・学年内で輪番制にしたり担当を決めたり発信力を上げていく。 ・連絡だけにならないよう、内容を工夫していきたい。(授業や学校生活の様子を伝える) ・特別号などを作成し、行事後すぐに成果を発信する。(生徒の感想なども積極的に紹介する) ・生徒に学年通信の中身を伝え、保護者に行き渡るような指導を行う。 ・学校公開では情報提供を増やし、参観しやすい雰囲気をつくる。 ・地域行事に参加するなど、家庭だけでなく、地域とのつながりも深めていく。 ・発行前に共通理解を図り、ガイドラインを作成するなど統一した情報発信を行う。 ・他校や異校種の情報発信を参考にしていく。 	3.7	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員に「旭中通信(学校だより)」が郵送され、学校の動向がわかってとても良い。 ・今年度はコロナ禍で地域との関係作りの機会がほとんどなかった。 ・学校ホームページをいつも楽しみにしている。 ・学年だよりは内容がわかりやすかった。 ・コロナ禍の折、学校に行くことが少なくなり申し訳なく思っています。 ・学校と地域との連携もより大切にしていきたいと思っています。コロナ禍で今までと同じようにできないので、できることを一つずつ増やしていきたいと思っています。

3 評価結果の公表

自己評価、学校関係者評価については、ホームページで公表する。教育活動アンケート(生徒、保護者、教員)については、すでに印刷物で公表している。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

・確かな学力の向上、豊かな心の育成、健康な生活、開かれた学校など家庭・地域との連携が重要である。家庭や地域への啓発を工夫、強化することが改善のための一つの鍵になる。具体的な方策を発信し改善を図っていく。

・伝統ある本校は地域の期待も大きい。期待に応えるためにも今年度の反省をもとに考えた改善策を、まずは確実に実行していく。PDCAサイクルを活かして、年度途中でも改善策の妥当性を吟味し、必要に応じて見直しをしていく。学校経営計画等の視覚化、自己申告や授業観察の活用等を行い、教員の改善に対する意識を高めるとともに、よい実践の共有を進める。